

鳥取県病原微生物検出情報

(令和 7 年 4 月検出分 検体採取 令和 7 年 3 月及び 4 月)

令和 7 年 5 月 16 日

鳥取県衛生環境研究所

1 急性呼吸器感染症

臨床診断名が急性呼吸器感染症の検体 27 件（検体採取 4 月上旬・中旬）について検査を実施したところ、以下のとおりの結果であった。

検査対象（ウイルス）

ライノ、メタニューモ、インフルエンザ-A 型及び B 型、パラインフルエンザ 1-4、RS-A 型及び B 型、ボカ、COVID-19、エンテロ、アデノ

検査対象（細菌）

百日咳菌、*Bordetella holmesii*

患者年齢

0 才から 86 才

検出結果

27 件中 20 検体（74%）から以下の病原体が検出された。年齢層としては 1-4 才の幼児が多かった。ライノウイルスが 11 検体と最も多く検出されたが、このうち 5 検体は他の病原体（RS ウイルス、メタニューモウイルスなど）と重複していた。ライノウイルスの感染は、不顕性感染の率がメタニューモウイルス、RS ウイルスなどより高く約半数が無症状との報告があり [1]、重複していた場合、他のウイルスが病因である可能性も考えられた。

病原体	年齢別検出数							ARI (n=27) における割合
	0 (n=3)	1-4 (n=10)	5-9 (n=7)	10-14 (n=0)	15-19 (n=0)	20- (n=7)	合計 (n=27)	
ライノ	1 (1)	5 (3)	3			2	11	41%
メタニューモ	1 (1)	3 (1)				2 (1)	6	22%
RS-B		3 (1)	1				4	15%
ボカ		3 (3)				1 (1)	4	15%
パラインフルエンザ 4		1 (1)					1	4%
COVID19			1				1	4%
百日咳			1				1	4%
検出せず	2		2			3	7	26%

() 内は重複検出

【参考文献】

[1] Sarna M. et al. J Infect Dis. 2018 Jan 17;217(3):418-427.

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の 5 件について検査を行ったところ、5 件すべてからノロウイルスが検出された。ノロウイルスの 5 件はすべて G2 で GII. P16-GII. 4 が 4 件あり、RdRp (RNA-dependent RNA polymerase) 領域と VP1 領域の間で遺伝子の組換えがみられた。同時期に県内で多発していた食中毒で検出されていた GII. P17-GII. 17 は 1 件であった。また、サポウイルスが 1 件検出された。

3 A 群溶連菌感染症

臨床診断名が A 群溶連菌感染症の 2 件について検査を行ったところ、A 群溶連菌 1 件が分離され T4 型であった。全国的には 2024 年は T1 型が約 50% を占め多かったが、2025 年は 5 月 9 日時点で T4 型が 33% を占め、最も多い (国立健康危機管理研究機構 IASR 速報グラフによる)。T 型別は病原因子である M タンパクの型別 (emm 型別) と密接に結びついており、T4 型の emm 型はほとんど 4 型であり、劇症型レンサ球菌症から分離される割合は 1.3% (77/5,835、国立感染症研究所データ提供) と低い。

3 RS ウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症の 1 件について検査を行ったところ、RS ウイルス B 型が検出された。

4 水痘

臨床診断名が水痘の 1 件について検査を行ったところ、水痘帯状疱疹ウイルスが検出された。

5 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の 1 件について検査を行ったところ、アデノウイルス 37 型が検出された。

6 急性出血性結膜炎、咽頭結膜熱

臨床診断名が急性出血性結膜炎、咽頭結膜熱の検体 1 件についてそれぞれエンテロウイルス、アデノウイルスについて検査したところ、ウイルスは検出されなかった。